



時代を拓き 世界に貢献する人を目指して

# Global View

2019年7月13日 Newsletter 第59号 仙台白百合学園中学・高等学校 国際教育部

## 「Importance of Realization (気付くことの大切さ)」 英語科主任 ケルーシェ 千恵

「言語を学ぶのが大好き。英語が大好き。人とコミュニケーションをするのが大好き。英語が話せるようになって、世界中の人とつながりたい。英語が話せる喜びを生徒に伝えられる英語教師になりたい！」

私の英語人生の始まりは、中学校。本格的に英語を学び始めたのは中学1年生でした。当時、ALT (Assistant Language Teacher) の Kelly 先生が授業に来てくださった時のわくわく感は今でも覚えています。田舎の出身の私は、町にただ1人のアメリカ人の Kelly 先生の授業をととても楽しみにしていました。外国の方はどんなことに興味があるのだろうか、自分の英語は通じるのだろうか、といつも気になっていました。ある日の放課後、Kelly 先生と初めて個人的にお話した時、恥ずかしながら”Do you marry?”と知っていた単語をつなげて先生が既婚かどうかを尋ねたのです。すぐに私が聞いたかったことを理解した先生は、”Oh, you mean... Am I married? You say, are you married? Not, do you marry? And the answer is, no, I'm not married.”と教えていただきました。たったこれだけのやり取りでしたが、私は学んだつたない英語を使って先生とコミュニケーションが取れたことにととても感動し、「絶対、英語を話せるようになるぞ！」と心に決めたのでした。

英語が大好きだったので、教科書の本文を全て暗記し、教科書に出てきた中学校のレベルの文であれば、日本語を全て英語に直せるようになっていました。モノマネが得意だった私は、常にネイティブ・スピーカーの先生の発音の真似をし、英語の独特の音を覚えていきました。田舎の中学校ではカタカナ英語が普通で、英語らしい発音をよく笑われていましたが、authentic(本物の) English を学びたいと努力し続けました。中学生の時のこの努力が、今の私の英語力の基礎を作ってくれています。生徒からは、「どうやったら英語が話せるようになりますか?」とよく質問されますが、秘訣は上記の2点です。中学校レベルの教科書の本文を暗記して、単語を入れ替えて応用できるようにすること。完璧でなくても良いので、通じる発音を単語や文を学ぶ過程で習得すること。日頃からなるべく正しいこの2つを心がけてみてください。また、朝から晩まで自分が普段の生活で家族や友人と使っている表現や言葉を英語にできるか確認してみるだけで、ぐんと英語の会話力が上がります。

話はずれましたが、様々な努力が実り、高校でアメリカに一年間留学できることになりました。幸運なことに、全国家庭クラブ (Future Homemakers of Japan 通称 FHJ) の全国代表に選ばれ、アメリカのインディアナ州ロスビルで1年間、現地の高校生と共に学ぶことができました。ホストファミリーは、当時64歳だったホストマザーのみ。ホストマザーを”Mom”(お母さん)と呼び、多くのことについて語り合い、アメリカの文化やアメリカ人の考え方を学びました。時には失礼な質問もしたと思いますが、Momはいつでも親身になってくれました。『留学』というとても華やかに聞こえますが、実際はとても地味なものです。平均的に、渡米後3か月経ってやっと周りが言っていることがわかるようになり、半年後にやっと自分が言いたいことをある程度話せるようになります。インディアナ州に到着したばかりの頃、見渡す限りに広がるトウモロコシ畑にととても感動したのを覚えています。インディアナ州には山がなく、flat(平ら)なのです。その時に、”Corn field is beautiful!”とホストマザーに伝えました。”Chie, that's magnificent. That's the word you're looking for.”(あなたが探している言葉は“magnificent(壮大な)”よ。)と教えてくれたのです。小さな子どもが言葉を吸収する瞬間というのは、このような感じでしょうか。私はエピソードと共に多くの単語を”real”に感じながら、英語を学んでいきました。

”realize”という単語を辞書で引くと、はっきり理解する、悟る、実現する、現実化するなどたくさんの意味がありますね。この単語を理解するには、real (現実の) と -ize (～にする、～になる、～化する) と2つに分けると理解しやすくなります。リアルはカタカナでもよく使われますね。自分の夢を実現する。＝自分の夢をリアルにする。忘れ物をしたと気付いた。＝忘れ物をしたことが頭の中でリアルになった。こんな風に考えると、この単語も意味を取りやすくなりますね。

私は教師をしていて、いつも realization (認識すること、悟ること、達成すること) の大切さを感じています。現代の日本で、教育を受けられない人はほとんどいません。でも、その教育を受けられる機会を最大限に活用している人はどれくらいいるのでしょうか。恵まれている生活の中で、貧困や飢餓に苦しんでいる人の生活を本当の意味で realize するのは難しいかもしれません。ある神父様が、「勉強をする意味は、見えないものが見えるようになるためです。」とおっしゃっていました。「例えば、簡単に言うと、目の前に野菜があったとして、勉強することによって、その野菜を育てている人の苦勞がわかり、トラックで運んでくださるドライバーさんの苦勞がわかり、スーパーや八百屋さんの方が店先に並べて下さる苦勞がわかるようになります。知らなければ、想像できることに限りが出てきます。勉強をするというのは、そういうことです。」私の中で何かはじけた感じがしました。勉強し続けることが、私の中でさらに real になったのです。

フランス人の夫との会話も realization にあふれています。英語を勉強し続けて、英検1級レベルの単語を学んでいくと、フランス語由来の単語が多いことに気がきます。フランス語のネイティブ・スピーカーの夫と日々英語で会話をしていて、こんなに難しい単語は知らないかもしれない...と思いつつ使ってみたところ、通じるということが何度もあり、失礼だとは思いつつも「どうして、こんな難しい英語を知っているの？」と聞いてみました。「フランス語にも同じ単語があるからね。」との返事。また、フランス人は、critical thinking (批判的思考) を大切にしています。和を大切にしている日本人の私と、常に批判精神が旺盛な夫。最初は「なんて文句ばかり言っている人なのだろう。」と思った時もありましたが、本人は文句を言っているつもりではないとのこと。何か気に入らないことがあったら、言葉にする文化なのだと理解しました。違う国で育ち、違う文化を持つ夫と生活をする中で、私は寛容性を身につけられた気がします。文化と慣習が違う私と夫が生活していると、マイナートラブルがつきものです。トラブルがあった時には、必ず話し合いをし、折衷案を探ります。お互いの違いに気付くと、その違いを尊重するようになります。お互いを排除したり無視するのではなく、違いを受け入れる寛容性が、現代社会に必要ではないかと思うのです。

童謡詩人である金子みすゞさんの有名な詩、『私と小鳥と鈴と』は「鈴と、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい。」ということばで終わっています。私は、グローバル化が進み、世界が小さく感じられるようになってきた今こそ、この詩の言葉の重みをさらに感じています。オーストラリアに10か月間留学した際、初めて人種差別を実感する事件がありました。オーストラリア人の友人と一緒に電車に乗ったところ、年配の白人女性に、罵り言葉を言われながら、足を強く踏まれたことがありました。間違っただけで踏んでしまったのだらうと思いつつも何も言わずに足を移動させた後、もう一度思いっきり踏まれたので、ただただ動揺し、何もできずにその場で固まってしまいました。その事態に気付いた友人が助けてくれ、ほっとしたのを覚えています。かつて日本軍がオーストラリアと戦争をしていた歴史を知らなかった無知な私は、この件により日本とオーストラリアの歴史に興味を持つことになりました。multiculturalism (多文化主義) であるオーストラリアで、人種差別にあうなんて、と驚きましたが、オーストラリア人である友人の南アフリカ出身のご両親と話をしていくうちに、移民から成り立つオーストラリアにある、人種間の軋轢を学びました。「日本にも様々な差別があります」と言ったら、どのように感じるのでしょうか。日ごろから使っている日本語に対してもっと敏感になる必要があるかもしれません。例えば、「外人」と「外国人」あなたはどちらを使っていますか。どちらが正しいと思いますか。または、どちらも正しくないと思うのでしょうか。

本校のLE (英語・留学) コースのⅢ年生の和田史央さんが、国際理解に関する英語弁論大会で、宮城県大会、東北大会共に第一位に選ばれ、全国大会に出場します。和田さんのスピーチのタイトルは”Cherish Everyone in the World”。日本人とフィリピン人の両親を持つ和田さんが普段感じている違和感を指摘してくれています。私たちが普段触れ合う人のほとんどが日本人という状況で、「人種差別」という言葉はあまりピンとこないというのが正直なところではないかと思います。世界で活躍するアスリートが増えてきていますね。例えば、皆さんは日本人で初めてグランドスラムを達成した大阪なおみさんを「日本人」だと思いませんか。大阪さんに向けて「日本語で今の気持ちを答えてください」というメディアにどのような気持ちを抱きますか。自分の中の様々な気持ちを realize すること、気付いたことを客観的に分析することが、国際的な視野を養う第一歩ではないかと思っています。

最後に、私が考える<英語力 UP の秘訣>と<グローバルな視野を持つ人になるための秘訣>の2つで私の言葉を締めくくりたいと思います。

## <英語力 UP の5つのコツ>

- ①英語をどのくらい上手に使えるようになりたいのかのイメージを持つ。また、使えて嬉しい自分を想像する。
- ②中学校(レベル)の教科書の語いと本文を暗唱+日本語を正しい発音で英語にできるように練習する。
- ③より相手に伝わりやすいように、ネイティブ・スピーカーの発音の真似をする。発音できる音は聞き取れるようになります。英語独特の発音やつながる音も積極的に真似して覚えましょう。
- ④洋楽を聞いて歌ったり(英語のリズムを体で覚えられますし、楽しいです!)、英語のニュースをスマホのアプリで読んだり、聴いたり(CNNやBBCがオススメです)、洋書を読んだり、自分で英語漬けの環境にしてみるのもおすすめです。
- ⑤海外の人と英語で文通を試みよう!メールでも、SNSでも。使いながら覚えていきましょう。

## <グローバルな視野を持つ人になるための7つのコツ>

- ① 思考力を鍛える/知識を蓄える  
なぜこうなるんだろう?その出来事の本質は?常に何か物事が起きた時に「考える」癖をつけよう。「考える」ために、さらに物事への理解を深めるために知識を蓄えていこう。
- ② 自分の意見を持ち、相手に伝える  
「自分はこう思う」「私はこう思う」と意見が言えるようになろう。「なぜ?」と聞かれた時にも答えられるように。どっちが良い?と聞かれて、どちらでも、とらないように。どちらでも、というのは関心がないと思われてしまいます。
- ③ 相手に関心を持つ  
マザー・テレサは、「愛の反対は憎しみではなく無関心です」という言葉を残しています。相手に興味を持って、相手の話をよく聴き、相手のために行動を起こせる人になれるといいですね。
- ④ 自分と相手は「違う」ことを受け入れる  
十人十色と言いますが、日本人同士ですら一人ひとり考え方が違います。日本人でない人であれば、さらに違いは大きいかもしれません。それを理解した上で、自分の意見と相手の意見が合わない事は、当たり前にかかる事と思しましょう。相手の意見を理解した上で、自分の意見をわかりやすく伝え、折衷案を考えていくことが問題を解決する糸口になります。
- ⑤ 身近な所から行動を起こす  
“global”という単語は、“globe(地球)”の派生語で、地球規模の、全世界のという意味ですね。グローバルな人というのは、どんな人を想像しますか。私は身近な所に小さな変化を起こし続けることができる人だと思っています。大きな変化を起こすためには、小さな変化の積み重ねが重要だと思います。まず、自分の近くで困っている友人や、家族の話を聞いて、その人のためにできることから始めてみませんか。
- ⑥ 英語だけじゃない!外国語を学ぼう!  
外国語というと、まず英語、と思うかもしれませんが、英語が苦手でも大丈夫。他の言語を学ぶことも大切です。興味を持った言語を学んでみることで、その言語を話す人の文化も見えてきます。
- ⑦ 笑顔と明るいあいさつ  
国や人種が違って、あいさつは人と人のコミュニケーションの潤滑油。笑顔で「こんにちは」「ありがとう」を相手の目を見て伝えられるといいですね。笑顔は世界共通のコミュニケーションツールです。



ホストファミリーと一緒に



小学校で日本について授業



思い出のアルバム 留学先で18歳のお誕生日会